稲城野草散策の会

野草スケッチ　キツネノカミソリ（ヒガンバナ科）

1996/08/08　　稲城市坂浜　　絵と文　Ｔａ

雑木林を知るためには、切り開かれた道だけを歩いていてはだめだ。
最近、あまりやらなくなったが、数年前にはよく薮の中を歩き回った。
薮漕ぎは主に冬に行う。
夏にはとても入れないようなヤブでも、冬ならば楽に歩ける。

会報第９２号　２０１２年8月１９日発行　発行責任者　尼子　房夫

ヤブ蚊もいないし、蛇も出ない。

薮の中には外からでは気づかなかった植物がある。
見慣れない樹木に戸惑ったり、シダを見ては首をひねったり、いつもとは違う出会いが楽しい。
常緑の葉を持ったエビネ、サイハイランなどの野生ランを見つけることもある。
倒木にエノキダケが生えていたりもする。
ノウサギの糞や、ときにはキツネの糞とおぼしきものにも出会う。

オオバジャノヒゲの項で紹介した南山入り口近くに、夏ならばとても入れない谷がある。
冬でも入り口にはアズマネザサやノイバラなどが密生しているため、そこを突破するにはちょっと勇気が必要かもしれない。
しかし、密生しているのは、林の外側を覆っているマント群落（エビヅルの項参照）であって、中は意外と歩きやすい。
けもの道のような細い踏み跡がある。
明らかに人間の通った跡もあり、それはたいていヤマイモ掘りの人がつけた足跡だ。

この谷で見慣れない草に出会ったことがある。
３０ｃｍほどの細長い葉がかたまって生えている。
ヒガンバナにやや似ているが、それではない。
はて、なんだろう。
スイセンの葉にも似ているが、葉の質が柔らかくみずみずしい。

そのときはまだ植物については新米だった。
花はないし、図鑑でも調べようがない。
疑問符をたくさん点滅させながらその場を離れた。

正体が明らかになったのは、その年の秋であった。
坂浜にはキツネノカミソリが咲く谷戸が何箇所かある。
花の終わったキツネノカミソリを見ていたら、あのヤブ漕ぎで見て疑問符だらけになった葉が出ているではないか。
そうか。キツネノカミソリだったのか。
ようやく謎が解けた。

花の時期、キツネノカミソリには葉がない。
花が終わると葉が出て冬を過ごし、初夏の頃には消えてしまう。
ヒガンバナも同じ性質を持っている。
花を見てすぐにわかる植物は、葉の観察がおろそかになりがちだ。まして、花の時期に葉が無ければ、わざわざ葉を調べる気にはなりにくい。
その盲点を突かれた感じだった。

キツネノカミソリにはアルカロイドを含んでいて、有毒植物とされる。
この葉を、ニラと間違えて食べた人がいるそうだ。
命に別状はなかったが、下痢や吐き気で苦しんだらしい。
私も最初はわからなかったのだから、えらそうなことは言えないが、わからないまま、「だろう」で食べてしまうとは、論外である。
私も山菜はよく利用する。明日はわが身とならないよう、気をつけねば、と思う。
（２０００年８月記）

＊　＊　＊　＊　＊

〔観察記録〕７月２８日　金剛の滝

全国的に猛暑の一日で、集合場所の武蔵五日市駅も暑かった。気温が高い上に湿度も高く、厳しい観察会となりました。駅前に集合した方は２６人、林さんからひとしきり熱中症対策の説明があってから出発となりました。

駅前の道は五日市街道の終点でその先は檜原街道という名称にかわります。私たちは檜原街道の方に進みます。ちょっと歩くと右側に分かれる檜原街道の旧道らしい狭い道があって、こちらの道を歩くことにしました。住宅街の中には古民家を利用した五日市郷土館がありました。ふたたび現在の檜原街道に戻ってしばらく歩くと、小中野という交差点があって、街道が二手に分かれます。その間にある神社で給水トイレタイムをとりました。

左側の道を進むと、沢戸橋、新久保川原橋の二つの橋で秋川とその支流盆堀川を渡ります。橋を渡ると林の中に入ります。さすがに林の中に入ると気温が下がり、涼やかな風も流れてきて、皆さんホッとした表情になります。道路脇の岩には本日のお目当てであるイワタバコが咲いていて、皆さん大喜びです。この道は刈寄林道という名前だそうで、間もなく橋を渡って坂沢林道という道へ進みます。林道が尽きたあたりで、昼食タイムとなりました。

昼食後は沢沿いの山道を歩きます。砂防ダムの脇を抜けると正面に小さな滝が見えます。滝の脇のトンネルをくぐると、本日の目的地、金剛の滝です。滝の脇

にはハシゴがあって、そのまま先に進めるようになっているのですが、現在は通行止めになっています。そこで砂防ダムまで引き返し、北側の尾根に向かう急坂を登ります。尾根までの標高差は７０メートルほど、本日の暑さを考慮してゆっくりゆっくり登りました。

この尾根筋から１キロほど歩くと臨済宗の古刹・広徳寺です。この寺には東京でも最大級のカヤやタラヨウがあるのですが、到着した頃には雲が厚くなり、遠くで雷も鳴り出したため観察会はここで終了、五日市の駅へ向かいました。

▼観察記録（出現順）

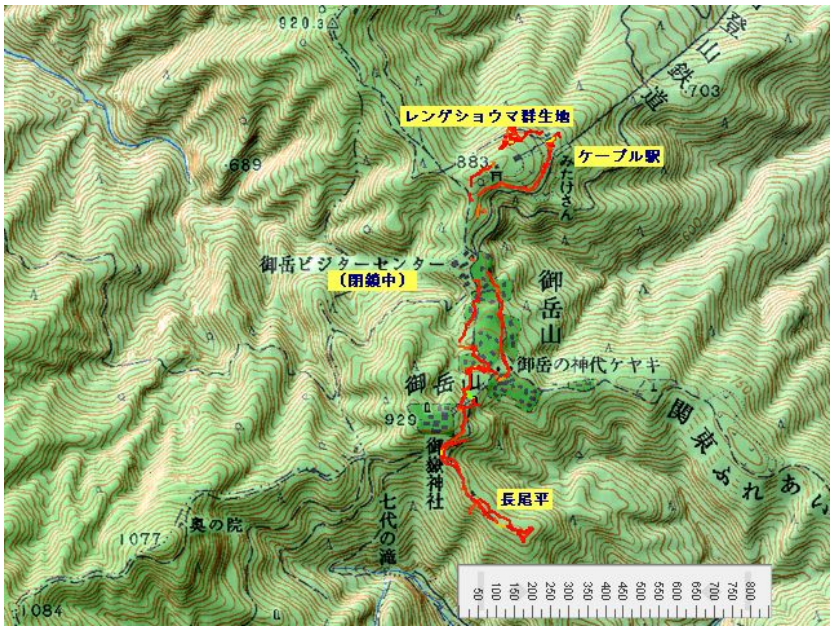
イワガラミ、ヒメイタビ、アカメガシワ(花)、ハエドクソウ(花)、ヒメヤブラン、コヒルガオ(花)、コバノヒノキシダ、クサノオウ(花)、ボタンヅル、ノブドウ、クマワラビ、ハグロソウ(花)、テリハヤブソテツ、ウリノキ、コアカソ(花)、タマアジサイ(花)、モミジガサ(蕾)、ニガキ、オオバノイノモトソウ、ヤブソテツ、イヌショウマ(蕾)、アマチャヅル、ダイコンソウ(花)、キバナアキギリ、ゼンマイ、ウマノミツバ(花)、キツネノボタン(花)、ミツバ(花)、ヤブデマリ(実)、ママコノシリヌグイ(花)、ツリフネソウ、メヤブマオ、ナガバハエドクソウ(花)、イワタバコ(花)、カノツメソウ(花)、ヤブコウジ(花)、レモンエゴマ、ヤブミョウガ(花)、ミズタマソウ(花)、ヌスビトハギ(花)、コアジサイ、タチシオデ、ゲジゲジシダ、マツカゼソウ、モミジイチゴ、ミツバウツギ(実)、ヒメワラビ、サラシナショウマ(蕾)、ミゾシダ、ホドイモ、マタタビ、ヤマノイモ(花)、ヤマホトトギス、ヤマアジサイ(花)、コクサギ、フジカンゾウ(花)、キヨタキシダ、アキノタムラソウ(花)、キンミズヒキ(花)、ムカゴイラクサ(花)、キヨスミイトゴケ、ウバユリ(蕾)、カントウミヤマカタバミ、ハナイカダ(実)、アブラチャン、リョウメンシダ、イワガネゼンマイ、ミョウガ、ウワバミソウ、ヒメチドメ、オオバギボウシ(実)、セントウソウ、ノブキ、ミヤマフユイチゴ、シンミズヒキ、ミズヒキ(花)、フサザクラ、ミヤマタニソバ、オカトラノオ、フモトシダ、ムラサキニガナ、ビナンカズラ、ニガクサ(花)、ウバユリ(蕾)、マルバウツギ、オトギリソウ(花)、タケニグサ(花)、ヒヨドリバナ(花)、ヤブラン(花)、アメリカオニアザミ(花)、カラスザンショウ、ニガイチゴ、ネコハギ(花)、オオバノトンボソウ(花)、カシワバハグマ

＊　＊　＊　＊　＊

◇　名前入りバッジ　◇

稲城野草散策の会では、観察会に原則として８回以上参加された方に名前入りバッジを差し上げています。この条件に当てはまる方でまだ受け取ってない方は世話役の尼子までお申し出下さい。

〔行事予定〕2012/8/19（日）　御岳山

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、ＪＲ青梅線・御嶽駅 改札口付近　※会旗目標 改札口は一個所だけです
交　通	新宿から乗換えなしで運行している「ホリデー快速・おくたま号」が便利です。ホリデー快速立川発・・・８：４７、９：１５ ホリデー快速の前４両は五日市行きですので、後ろ６両に乗ってください
行く先 (解散場所)	長尾平まで行って戻る予定です（下の地図を参照ください） 御嶽駅にてｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	ケーブルの終点、御岳山駅は８３１ｍの標高があり、関東平野が一望できます 今回のお目当てはレンゲショウマです
地　図	
コース	御嶽駅→（バス）→滝本駅→（ケーブルカー）→御岳山駅→レンゲショウマ群生地→御岳神社→長尾平（昼食）→御岳神社→神代欅→御岳駅→（ケーブルカー）→滝本駅→（バス）→御嶽駅（解散） 行程４～５ｋｍ程度です。多少のアップダウンがあります コースは天候その他により変更する場合があります

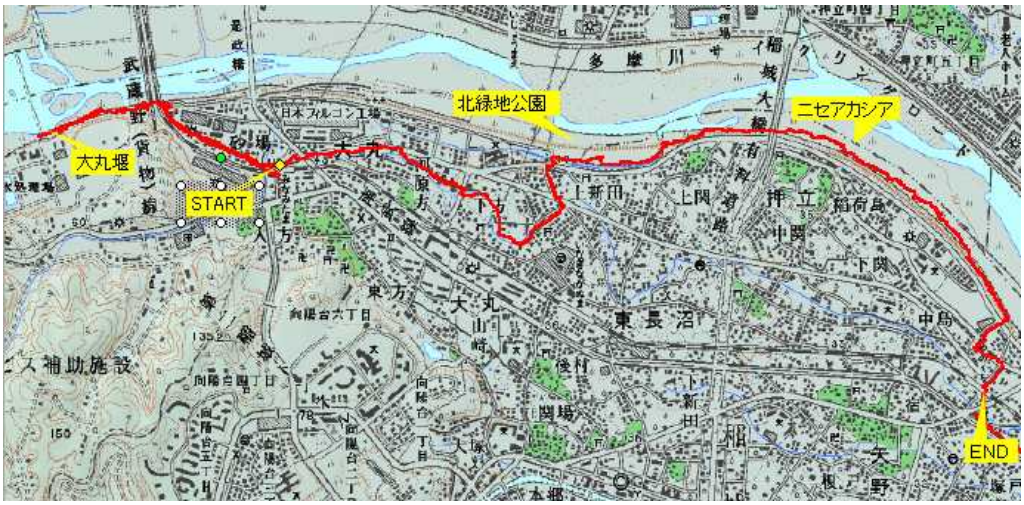
※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円

※なお、御嶽駅～滝本駅間のバス代、ケーブル代は各自でお支払い下さい

〔行事予定〕2012/9/30（日）　大丸用水

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、ＪＲ南武線南多摩駅　改札口付近　※会旗目標 改札口は一個所だけです
交　通	南武線はＪＲ川崎駅と立川駅の間、多摩川に沿って走っています 南多摩まで川崎から約４５分、立川からは約１５分（乗換えなし） 電車は１０分程度の間隔で運行されています（すべて各駅停車）
行く先 (解散場所)	ＪＲ南多摩駅　→　ＪＲ矢野口駅（下の地図を参照ください） 矢野口駅　ｐｍ４時頃解散予定
見所 その他	今回は水草の観察をしたいと思います 水辺の環境と、畑・路傍などの乾燥地とで植生がどう違っているか、観察するのも面白いと思います 大丸用水については、野草スケッチ「ミゾソバ」のエッセーを参照してください http://homepage3.nifty.com/inagiyasou/essay/e087.htm

地　図



コース	南多摩駅～大丸堰～南多摩駅裏～大丸自治会館～北緑地公園～ニセアカシア～矢野口駅（解散） 行程５ｋｍ程度、アップダウンはありません コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円